

文献情報

表題・資料名							
"Is There Synchronicity in Nitrogen Input and Output Fluxes at the Noland Divide Watershed, a Small N-Saturated Forested Catchment in the Great Smoky Mountains National Park? "							
部会	G3	文献ID	R1073	観測ID	S001	公表年	2001
著者名							
H. Van Miegroet , I. F. Creed , N. S. Nicholas , D. G. Tarboton , K. L. Webster , J. Shubzda , J. Smoot , D. W. Johnson , S. E. Lindberg , G. Lovett , S. Nodvin , S. Moore							
収録雑誌名							
The Scientific World Journal							
巻号	1(S2)	ページ	480-492				

地点情報と流域情報

都道府県	North Carolina					
経度	35 ° 34' N	緯度	83 ° 29' W	標高(m)	1650-1910	
流域名	Noland Creek					
流域面積(ha)	17	平均勾配		流路延長 (km)		
主要樹種	red spruce	林相コメント				
地質情報	inceptisol	地質コメント				
年平均気温 ()		年平均雨量(mm/y)				

時期と調査方法

観測開始	1993.4	観測終了	1997.3	観測期間	4年
採水頻度	週1回				
採水方法	マニュアル				
流量観測頻度					
流量観測方法	実測値・モデル観測地(水位連続データからモデルによる推算を行い、実測値でチェック)				
気象観測方法	実測				
気象観測コメント					

降雨時調査

調査の実施		採水方法	自動採水器
降雨時調査回数			
降雨時調査の内容			

対象項目

N		P		有機物	その他
全窒素 TN		全リン TP		T-COD(Mn)	SS
溶存態窒素 DN		溶存態リン DP		D-COD(Mn)	
無機態窒素 DIN		PO4-P		TOC	
硝酸性窒素				DOC	
硝酸性・亜硝酸性窒素					
アンモニア性窒素					
その他		その他		その他	その他

流域へのインプット量 (降雨等)

窒素					
全窒素 TN		単位		コメント	
溶存態窒素 DN		単位		コメント	
無機態窒素 DIN		単位		コメント	
硝酸性窒素	11.6	単位	kg/ha/y	コメント	wet+dry+fog
硝酸性・亜硝酸性窒素		単位		コメント	
アンモニア性窒素	20.6	単位	kg/ha/y	コメント	wet+dry+fog
その他		単位		コメント	
リン					
全リン TP		単位		コメント	
溶存態リン DP		単位		コメント	
リン酸態リン PO4-P		単位		コメント	
その他		単位		コメント	
有機物					
T-COD (Mn)		単位		コメント	
D-COD (Mn)		単位		コメント	
TOC		単位		コメント	
DOC		単位		コメント	
その他		単位		コメント	
その他					
ss		単位		コメント	
その他		単位		コメント	

原単位（年流出負荷量）

窒素					
全窒素 TN		単位		コメント	
溶存態窒素 DN		単位		コメント	
無機態窒素 DIN		単位		コメント	
硝酸性窒素	14.8	単位	kg/ha/y	コメント	
硝酸性・亜硝酸性窒素		単位		コメント	
アンモニア性窒素	0.2	単位	kg/ha/y	コメント	
その他		単位		コメント	
リン					
全リン TP		単位		コメント	
溶存態リン DP		単位		コメント	
リン酸態リン PO4-P		単位		コメント	
その他		単位		コメント	
有機物					
T-COD (Mn)		単位		コメント	
D-COD (Mn)		単位		コメント	
TOC		単位		コメント	
DOC		単位		コメント	
その他		単位		コメント	
その他					
ss		単位		コメント	
その他		単位		コメント	

負荷算出方法等

負荷算出方法					
コメント					
Nitrogen Saturated窒素の流出は大気からの沈着量を反映しているかどうかを調べる・Stage-2 of Nitrogen saturation河川次数：1次					

日本水環境学会 (2013) 非特定汚染源からの流出負荷量の推計手法に関する研究
 注：データを引用する際には必ず元文献をご確認ください。